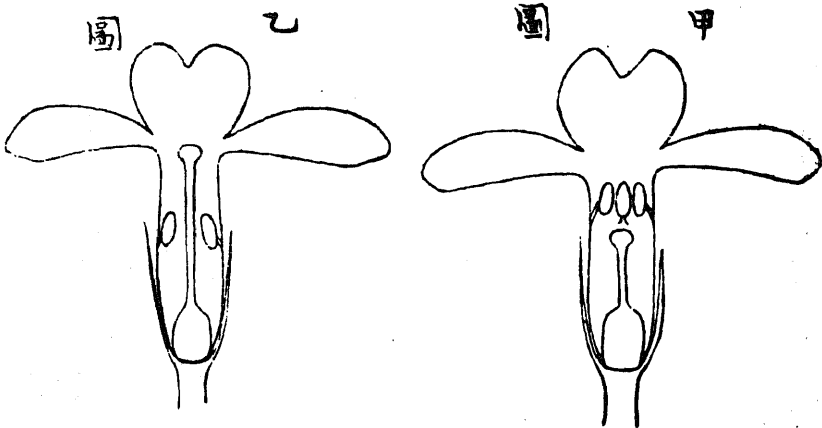


櫻草とげんげ

保井コノ

櫻草は東京近傍の河原、即ち戸田が原、浮間が原、田島が原等荒川沿岸の原を飾る春の花の一つであります、此花は櫻草科といふ科に属する植物で、全く櫻花とは縁故の遠い花でありますが、只其花瓣の先端が櫻花の如くに切れ込みがあるので、此名を與へられたのであります。

櫻草の花の萼は五枚ありまして其基部に近い所て互に連つて筒をして居ります五枚の花瓣は此萼と互生して居りますか是も互に續かつて、筒部を作つて居ります。雄葉は、また五つありますが、是は花冠の筒の部分に、附いて居りますが、其附着する場處は花によつて違つて居ります、即ち甲乙二種の圖に示す様になつて居りますのです。今甲の圖の雄葉の附着點を乙圖に示す花の雄葉の附着點と比較しますと餘程高い所にある事が解り



ませう。是と對比しまして此兩花の雄葉を見ますと、共に一個あります。其花柱の部分か甲では短く、乙では長い事に、氣附かれる事と思ひます、此差異は是に込まりこんで柱頭の構造も顕微鏡で見ますと少しく違つて居ります、花粉の大

きさも、違つて居りまして高い雄薬のは大きく低い雄薬のは小さいのであります。

此差異は何故に出来たかの問題はなかく面白い解答でありまして、有名なる進化論の開祖チャー

ルスダーウイン先生の研究せられて、其著書中に述べられたる所を以て此解答の初めと致します。

是によれば凡ての花は自己の花粉を自己の柱頭にうけて受精作用を行ふ時は、其種子弱くして、随

て次代の植物は充分の健康なるものでありませぬ、それで花は成るべく自己の花粉を自己の柱頭

に受けない工夫をして居ります。即或時は雌薬が先に熟して自花の雄薬が成熟する時には、雌薬は

既に受粉し終れる事もあり、或は、雄薬が先に熟して其花の雌薬が熟する頃には、最早其雄薬の、

薬の中には花粉の跡を止めない様になつて居る事もあるのですが、此花の如きは自花授粉を避ける自然の妙用の極端を發揮したものであつて

此大きな違つた花粉は各定まつた長さの花柱を

有する雌薬の柱頭でなければ發芽をしないのであります、即ち低き位置にある雄薬の花粉は丈の低い雌薬に至り高き位置にある雄薬の花粉は丈の高い雌薬の柱頭に至つて始めて花粉管を出すのであります斯の様な花を二形花と申しまして、植物學

上では有名な事實とせられてあります、只一言に櫻草といへば櫻に似た草花とのみ思はれますけれども、能く觀察すると、茲にも自然の奇妙なる働きは見られるのであります、私共は子供の單一な

摘み草といふ間にも今少し、氣を用ひて觀察させる必要あらうかと思ひます。

櫻草は多年生草本即ち宿根草でありまして、冬になりますと、地上部は皆枯れますが、翌春又地中に生きて居る地下莖から葉を出し、花軸を出し

まして美しい花を開くのであります、此花は今日こそ摘草位にせられて居るばかりですが、徳川時代

に於ては此櫻草は盛んに栽培せられて、是から出ました澤山の園藝變種には、今日、菊や朝顔に

見る様に、多くの美しい優しい名がつけられまし
て非常に愛玩せられたものでありますが、維新後
に、此風が廢りまして今日には、極めて少數の愛玩
家があり、其種數も極少數を刺すのみだと申す事
であります、其代りに今日には、歐洲産或は支那原
産の櫻草の類が澤山に、輸入せられまして、早春
の温室内に飾り、また春の花壇を飾つて居ります
今其二三を挙げますと。

「プリムラ、ミネシス」是は支那の原産で御座い
まして、彼地では、報春花と申す、つまり、梅
を花の魁とか申す様に、早春、諸種の花に先だつ
て花を開き春の來るを告げるといふ意味から起つ
た名で御座いませうか、日本では「寒ざくら」と申
して居りますが今日は植木屋などでも、學名の方
か通つて居ります、是には白、淡紅、紅色等があ
りまして花も澤山につき大きくてなか／＼立派なも
のであります。

是に反して花は極めて小形で淡紅色の可愛い、花

のさく「プリムラキルペシ」と申すのがあつます
是も支那の原産でありますが西歐に産するといふ
より歐報春の名があります、西洋では「ペビーブ
ラムローズ」と申すさうです。

「プリムラ、キューエンシス」是は英國のキュー植物
園に出來た雜種であります、花は黄色で極めて豪
宕な趣のある葉を持つて居る上品な種類でありま
す此外に尙、「プリムラ、ブルガリス」、「プリムラ、
オプコンカ」等黄色、赤色或は絞りの花を咲きま
すものが澤山にあります、凡て宿根のものであり
ますから根分けをして繁殖させますけれども種子
で繁殖させまして色々の變りましたものを見るの
も一般の楽しみと思ひます。

此他に、我國では尙高山の御花畑を飾る櫻草の種
類が若干ありまして高山植物の愛養家に培はれて
居ります、是等は極めて優雅なものか多く日本趣
味に適つたものが澤山にあるのであります。

櫻草科のものゝ内に、櫻草類の外に近頃盛んに培

養せられる「シクラメン」と申すのがあります、是は球根のもので御座いまして其形から、西洋では「ブタノマンチウ」と申す名が御座います、葉も一寸美しいのに、花は純白、紅色、白に紅色のほかしなどありまして、其上に面白い形を致して居りますから珍重せられます、花始から球を買つて栽えるのもよろしう御座いますが、實生を作りまして色々の變つた色のものを、作るのもまた一興と存じます、併し實生は三年位たないと花はつけませぬ、此外に日本産の「をかとらのを」なども澤山に栽えると面白いものと存じます。

「げんげ」又「れんげさう」は豈料の植物で御座います、藤の花や蠶豆の花と等しく、蝶形の花をつけますが一つの長い柄（總花梗）の上に澤山に集まつて恰度傘を擴げた様になつて居ますから繖形花序と申します、是は、随分廣く分布せられて居まして摘草と言へば、げんげ、たんばくと申す程で御座いますから善く御存じの事と存じます。

併し此草は花のみでなく今少し研究しますと面白く且有益のものである事が知られます、即此草をぬきとりまして注意して見ますと其根に小さな球の所々に附着して居る事に氣づかれませう、此球は、根に出来る瘤の様なものと言ふ意味から根瘤と申します。

根瘤は如何して出来るかと申すに、「根瘤バクテリア」と言ふ「バクテリア」の一種が根の組織内に入りまして茲で發育して其數が殖え、其刺戟によつて組織の膨れて出来るのであります、是は人の身體内に「化膿菌」など、言ふ「バクテリア」が這入つて腫物が出るのと同じ理由であります、併し腫物は人の身體から養分を採ります計りで害になるも益になる事が御座いませぬか「根瘤バクテリア」は「げんげ」には有益でありますので、つまり雙方に利益があると言ふので、他膿菌は人體に寄生すると申すけれども、「根瘤バクテリア」は「げんげ」に寄生すると言はずに、「げんげ」と共生し

て居ると申します、何故に、左様であるかと言ふに、植物が養分として根か吸ひ上げるもの、中で窒素化合物は、重要なもので御座いますが、此「根瘤バクテリア」は空氣中から窒素を探りまして窒素化合物を作りまして、自分か養分を貰つたり仕處とする處の「げんげ」に與へるのからであります、でありますから「げんげ」は窒素化合物の無い、瘠せた土地でも充分に育つ事が出来ます、其上に此様な場合には其土地の中にも剰余りの窒素化合物を出来させますから人は是を利用しますと、土地を肥やす事が出来るのであります。是は實際に行はれて居る方法でありまして、瘠田に澤山の「げんげ」を播きまして其花を開きかける時になりまして、此植物を掘り起して、すき込みますと、土中に出来て居る窒素化合物と共に此植物體も立派な養料となつて土地を肥えさせます。「げんげ」の花の開きます頃の名古屋から米原までの間、即美濃の平原を通りますと、其鐵道沿線の

田の所々に、絳毛壇を敷いた様に此花の開いて居るのを見ます、是は此地方では非常に善い「げんげ」が出来ますので私共か根の所を持つて立ちましても引する位で、大きいのになりますと先端まで一丈に余るのが出来ます、それに此地方では「げんげ」を栽えて其種子を採集して全國に賣り出しますのであります、其額は随分大きいもので岐阜縣の國産の一つとせられる程であります。根瘤は只に「げんげ」のみでなく、豆科一般の植物について居ますから、是を見たいと思召さば、むまごやし」でも、「つめくさ」でも蠶豆でも大豆でも豆科の植物であれば何でも見られます。併し是等の植物につく「バクテリア」は皆各々違つて居るのであります、次の御話は是を證明し且「根瘤バクテリア」が豆科植物にとれ位有用であるかと證明するものでありませう。歐洲には日本や支那で出来る大豆が御座いませんとでしたそれで以前獨逸で日本から大豆の種子を取

り寄せて是を栽培しましたが、如何しても花を開いて結實する事が出来ません、色々と考えた結果、土を取り寄せて栽えました所が始めて結實したので遂に「根瘤バクテリア」の有用なる事の解つたのであります、歐州にも苜科の植物が無い事は無い筈です是から推しても各別の種には別々の「バクテリア」の居る事が了解せられませう、そして又此「バクテリア」が必要でなくてはならぬものである事が解せられ様と思はれます。

君子人に異る所以のものは其心を存するを以てなり。
君子は仁を以て心を存し、禮を以て心に存す。
仁者は人を愛し、禮あるものは人を敬す。
人を愛するものは人恆に之を愛し
人を敬するものは人恆に之を敬す。
(孟子)

思出ひのまゝ

双葉女学校 幼稚園保母 後 藤 り ん

○一月の二十五日であつた、此日は天気朗かであつたが、非常に寒さを感じた、みんな會集から戻つて来て保育室に這入りますと、暖爐の周圍を残りず取りまき、それで種々の話を初めた、丁度前日が日曜であつたものですから、其日の中で最も面白かつたこと、つまらなかつたこと、嬉しかつたこと、悲しかつたこと、或は怖かつたこと、寂かつたこと、などを、さも得意顔に、話して居ります、それで、全身が暖まりますと、そろ／＼自分達の好む所に從て、活動を初めます、何時もなら、直に外にとび出すのでありますが、此日は除程の寒さを感じたものと見え、室内にて机の下や、廊下を知ひまはり犬や猫の眞似をする、すると、外の組までが、出掛けて来て、それに手傳つて椅子で周圍を圍つてやる、それで理想の動物園が出